

第2次福津市観光基本計画についての整理①

【目標像】

福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち

↑

【視点】

地域総体産業として取り組む(地域の活性化、波及効果)

↑

【課題】

観光客の周遊、PR、案内・看板、交通アクセスや宿泊施設の整備、
体験・イベントの工夫、外国人対応、団体・事業者間の連携

第2次福津市観光基本計画についての整理②

【課題】

↑

【基本方針】

- 国内外の人が何度も訪れたい魅力を磨く
(観光資源の魅力向上)
- 観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する
(受入環境の充実)
- ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化する(効果的な
情報発信)

第2次福津市観光基本計画についての整理③

【基本方針】

↑

【基本施策】

基本方針	基本施策
1 国内外の人が 何度も訪れたいくなる魅力を磨く	(1) 地場産食材を使った 福津らしい食の開発・普及 (2) 福津の目玉となる 特産品の発掘・磨き上げ (3) 自然環境資源や歴史・文化資源の 魅力発掘・磨き上げ (4) 自然環境、歴史・文化、産業等の 資源を生かした体験、交流型観光の推進 (5) 異分野との連携・組み合わせ等による 新たな観光資源の創出

2 観光拠点を整備し、 観光消費額を拡大する	(1) 観光案内の充実
	(2) 観光交流施設・地域の機能強化
	(3) 移動しやすい交通基盤の整備
	(4) 市内宿泊環境の向上と改善
	(5) 福津製品の消費拡大
	(6) 多言語対応等の促進
	(7) 観光人材の発掘と市民意識の向上
3 プラットフォームの構築や 管理、販促促進のた めの活動を強化する	(1) 各種媒体を通じた 広告・パブリシティの強化
	(2) 市内観光関係機関・団体との連携による 共同プロモーション
	(3) 市独自の観光情報発信の強化
	(4) 自治体等との連携による 情報発信及び誘客推進

事務局からの提案(方向性)

(前回の協議会での委員の皆様からのご意見より)

- 第2次福津市観光基本計画を見ても、

「福津市として観光の何に力を入れているのか分からない」

「福津市の観光における優先順位が分からない」

↓

- 福津観光に関するキャッチフレーズを設定し、

PRの軸を定めて、各施策・事業を展開していくのはどうか

- 同じ軸を中心にストーリー性あるPRを行うことで、各団体・事業者によるPRに統一性が出て福津観光の魅力を発信できるのではないかと

事務局からの提案(理由)

- 「第2次福津市観光基本計画」における【基本方針】では
“観光資源の魅力向上” ……自然資源、文化・歴史資源、食・特産品
“受入環境の充実(観光消費額の拡大含む)” ……拠点整備、周遊促進
“効果的な情報発信” ……効果的PR、連携した発信と強化
(参考)国土交通省「観光立国推進基本計画(第4次)」における
【基本方針】:「持続可能な観光」「消費拡大」「地方誘客促進」
- 福津観光における魅力は多種多様に多くある
- 多くの課題があり、計画では優先順位は明確化されていない

事務局からの提案(具体案)

➤「海から生まれたまち福津」

を中心にPRを展開してはどうか

- PRの中心(起点)を「海」にした理由は、
福津には、海に関するストーリーを持っている観光資源が多く、多くの観光資源につながるキーワードとして「海」が最適であるため。例えば、
- 宮地嶽神社:光の道で夕陽が沈む、海中には鳥居の址
- かがみの海:市の絶景としてPR、約3kmの海岸線
- 津屋崎千軒:塩の積出港として栄えた過去
- 新原・奴山古墳群:現存する古墳の近くまで入り海だった過去
- 他にも、歩ける松林、おいしい食(鯛、サザエ)、カフェ、海水浴など

福津観光の「核」について(案)

- 福津観光の「核」:「海から生まれたまち福津」
- キャッチフレーズを統一し、福津の強みや良さをPRすることで、一体的な観光の魅力発信になる
- 同じキャッチフレーズを使用することで、ストーリー性を意識することになり、福津らしい発信になる

【結果として】

- 観光資源(食、自然、歴史)のPRを通して、リピーターの増加へ
- 周遊促進や観光消費額の拡大へ
- “持続可能”な観光のまちへ